金鑽御嶽城跡（児玉郡神川町）

かなさな　みたけじょう　あと

築城年代：文明12年（1480年）、築城者：安保吉兼

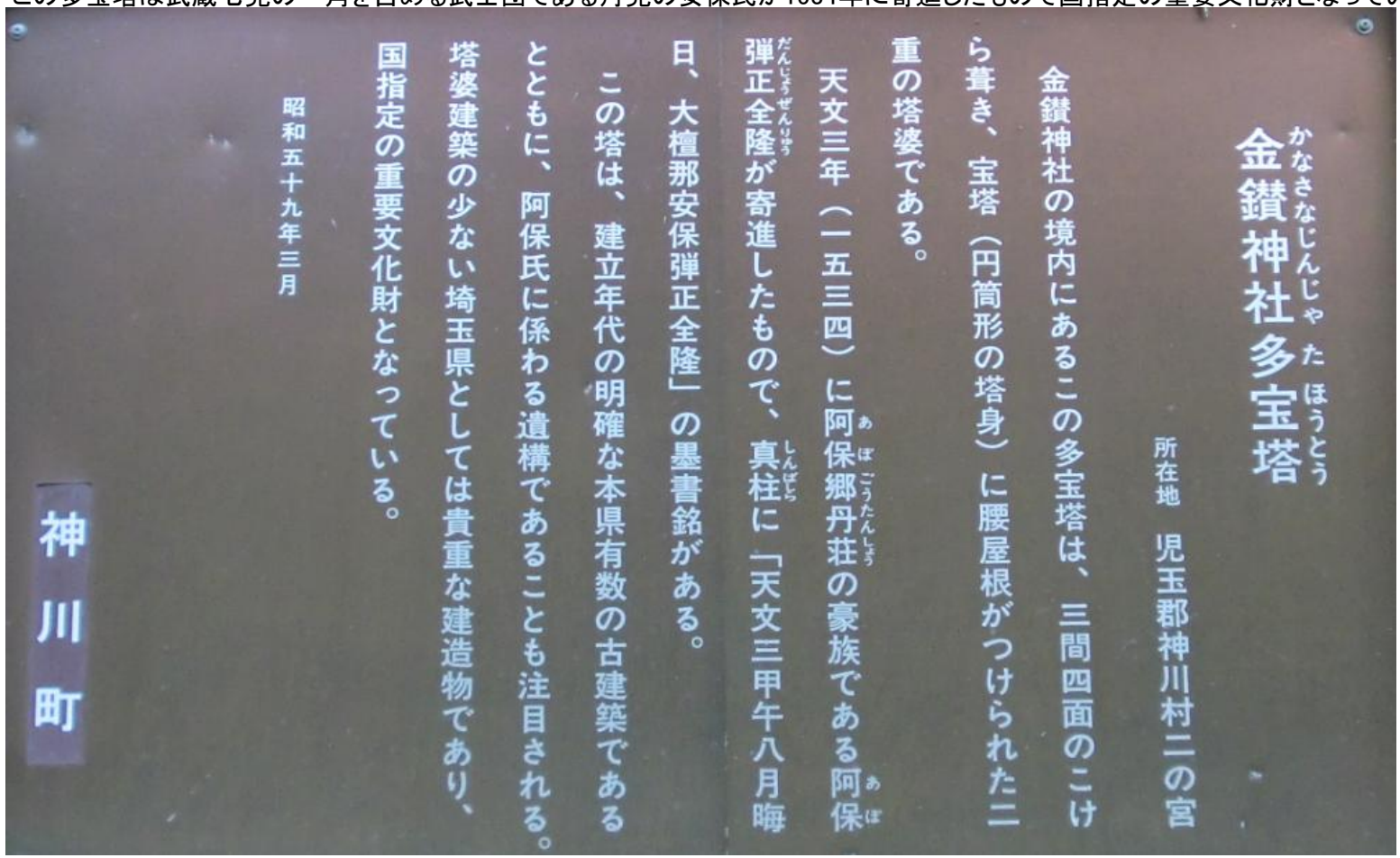
ここは金鑽神社/社殿後背の御室山を神体山とするため、社殿には本殿は設けないという古代祭祀の面影を残すことで知られる

式内社（名神大社）で武蔵国の二之宮とされる/金鑽＝金砂と見る説もあり、意味深な神社だ

一ノ鳥居、 二ノ鳥居を潜って参道を進む

すぐ右手に多宝塔がある/説明坂が立っている

この多宝塔は武蔵七党の一角を占める武士団である丹党の安保氏が1534年に寄進したもので国指定の重要文化財となっている



こんな感じ

小川に架かる赤い欄干の橋の向こうに三ノ鳥居が見える

金鑽神社

所在地　児玉郡神川村二の宮

金鑽神社は、旧官幣中社で、延喜式神名帳にも名を残す古社である。むかしは武蔵国二の宮とも称された。地名の二の宮はこれによっている。

社伝によれば、日本武尊が東征の帰途、伊勢神宮で伯母の倭姫命より賜った火打金を御霊代として、この地の御室山（御岳山）に奉納し、天照大神と素盞嗚命を祀ったのが始まりとされている。

鎌倉時代には、武蔵七党の一つ、児玉党の尊信が厚く、近郷二十二カ村の総鎮守として祀られていた。江戸時代には徳川幕府から御朱印三〇石を賜り、別当の一乗院とともに栄えた。

境内には、国指定重要文化財の多宝塔や、平安時代の後期、源義家が奥州出兵のため戦勝祈願を当社にしたときのものという伝説の遺跡〝駒つなぎ石〟〝旗掛杉〟〝義家橋〟などがある。

なお、この神社にはとくに本殿をおかず、背後の山全体を御神体としている。旧官・国幣社の中で本殿がないのはここのほか、全国でも大神神社（奈良県）と諏訪神社（長野県）だけである。

昭和五十九年三月

神川町

橋の上からその小川を見たところ/金鑽神社境内は金鑽御嶽城の居館エリアとも見られるので、これは堀跡なのかもしれない

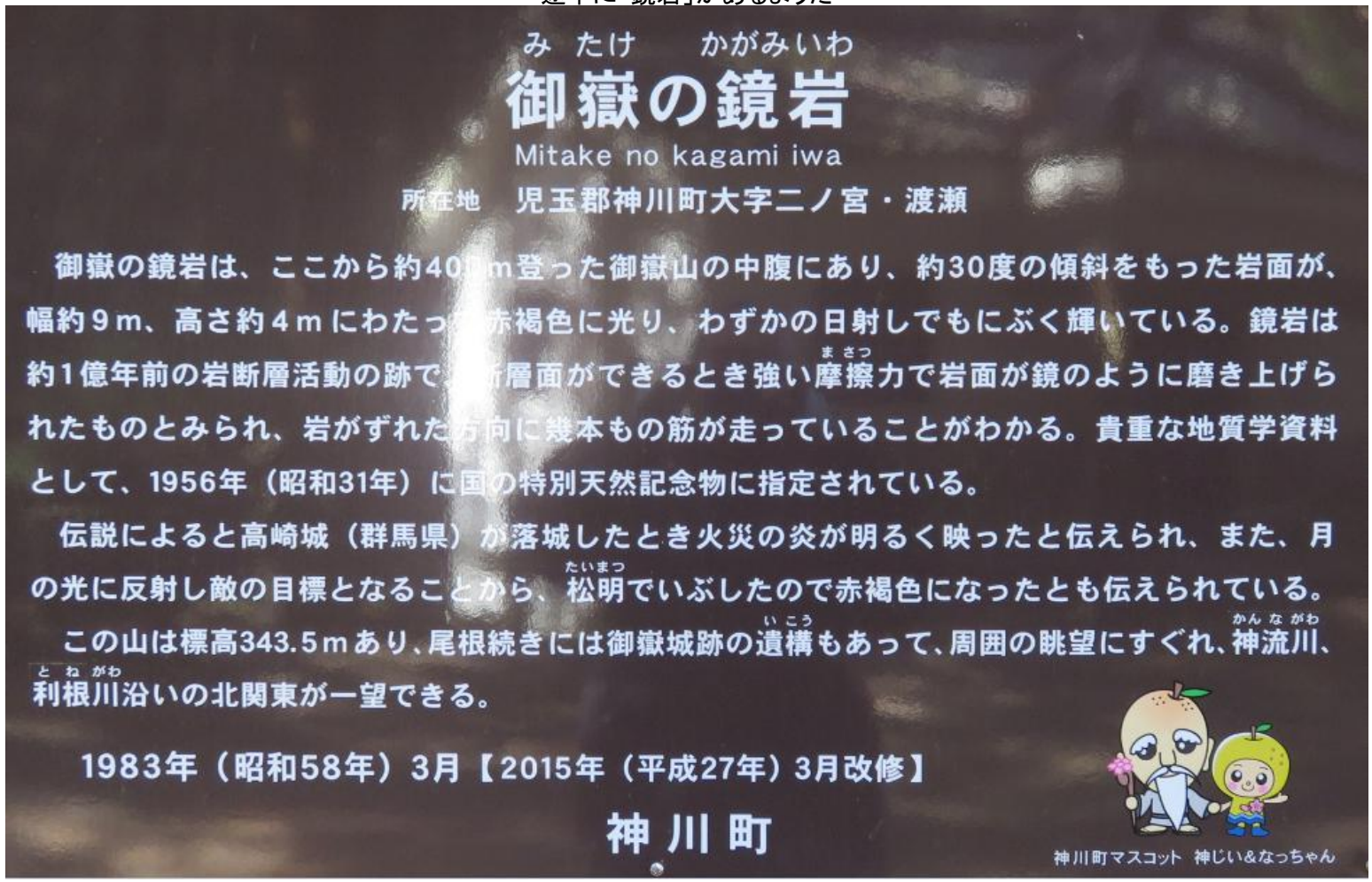
鳥居を潜ると正面に神楽殿、右手に拝殿がある

これが拝殿

正面は拝殿の後にある中門と瑞垣/背後の山が御室山（御室ヶ獄）/右手は拝殿

さて、こちらから金鑽御嶽城跡へと向かう

途中に「鏡岩」があるようだ



こんな看板も

みたけ山ハイキングMAP
バス停
温泉
登山口
秋葉神社
秋葉神社コース
神じい
なっちゃん
神流川
不動寺
登山口
バス停
渡瀬コース
登山口
林道
不動沢コース
御嶽山
343m
見晴台
磯岩
金鎖神社
ゴルフ場
462
多宝塔
現在地
金鎖コース
金鎖大師
ハイキングコース
登山口
幹線公道
林道
河川
尾根

正面の階段を登って行く

標柱には金鑽御嶽城跡の文字も

両サイドには沢山の石仏が並ぶ

「御岳の鏡岩」の標柱がある

鉄柵に囲まれた岩山が見えてきた

こんな感じ

説明坂がある

御嶽の鏡岩

昭和三十一年七月十九日　国指定特別天然記念物

御嶽の鏡岩は、約一億年前に関東平野と関東山地の境にある八王子構造線ができた時の岩断層活動のすべり面である。岩面の大きさは、高さ約四メートル、幅約九メートルと大きく、北向きで約三十度の傾斜をなしている。岩質は赤鉄石英片岩で、赤褐色に光る岩面は、強い摩擦力により磨かれて光沢を帯び、表面には岩がずれた方向に生じるさく痕がみられる。岩面の大きさや、断層の方向がわかることから地質学的に貴重な露頭となっている。

鏡岩は古くから人々に知られていたようであり、江戸時代に記された『遊歴雑記』には、鏡岩に向えば「人影顔面の皺まで明細にうつりて、恰も姿見の明鏡にむかふがごとし」とあり、『甲子夜話』にも同様の記述がある。また、鏡岩がある御嶽山の一帯は、中世の山城である御嶽城跡が所在することでも知られているが、鏡岩が敵の目標となることから、城の防備のため松明でいぶしたので赤褐色になったという伝説や、高崎城（群馬県）が落城した時には火災の炎が映ったとも伝えられている。このように鏡のように物の姿を映すということから、鏡岩といわれるようになった。

平成九年三月

神川町教育委員会

これがそのか鏡岩/国指定の特別天然記念物

アップで見たところ

上から見たところ

さて、金鑽御嶽城跡へと更に進もう/前方の階段を登って行く

登り切ると左右に道がある

左手を見たところ/こちらは金鑽御嶽城跡の東郭部分

右手を見たところ/こちらをまっすぐに登って行くと金鑽御嶽城跡の主郭があるようだ

これは今登って来た階段を見下ろしたところ

さて、こちらの東郭跡から見てみよう/西側から東方向に見たところ

ここにも石仏群がある

このエリアは本山派修験道聖護院末法楽寺の回峯行場となっていたという

御嶽山の石仏群

武蔵二の宮金鑽神社の神体山である御室ヶ嶽の南に連なる御嶽山（標高三四三m）周辺には、かつて本山派修験聖護院末法楽寺の回峯行場があり、「袖すり岩」、「胎内くぐり」と呼ばれる場所が現在でも残っている。石仏は、現在七十余体を残すのみであるが、当初はこの一帯に八十八体配置され、弘法大師巡錫の遺跡である四国八十八ケ所の霊場を模したようである。

巡礼は、江戸時代にもっとも盛んに行われた。亡くなった親や子を弔ったり、重病や眼病を患う者には特に巡礼が勧められた。御嶽山の石仏の中にも、肉親の菩提を弔うものがある。

これらの石仏は、その銘文からほとんどが近辺の武州・上州の人々から寄進されたものであるが、中には遠く江戸から寄進されたものもある。

法楽寺は、明治維新の神仏分離令により廃寺となる。石仏は、明治末期に御嶽山東の観音山に移され、ここでも毎年盛大な祭りが行われた。その後、大正初期頃現在の地に移されたようである。

石仏に関する地名は、御嶽山周辺に現在まで多く残っている。弁慶岩の下東には、地蔵石仏の安置されていたといわれる「地蔵穴」と呼称する岩穴がある。また、御嶽山の北西部麓に落ちる滝は、不動石仏が祀られているので「不動の滝」と呼ばれる。御嶽山頂の不動石仏は大不動といわれ、その前の石組は護摩壇であり、かつて修験者により柴灯護摩が修行された場所である。

平成二年三月（平成二十六年五月改修）

神川町教育委員会

東郭跡を北東側から南西方向を見たところ

その左手を見たところ

さて、東側には御嶽山の岩山展望場所や弁慶穴がある

まず、岩山展望場所へ登ろう

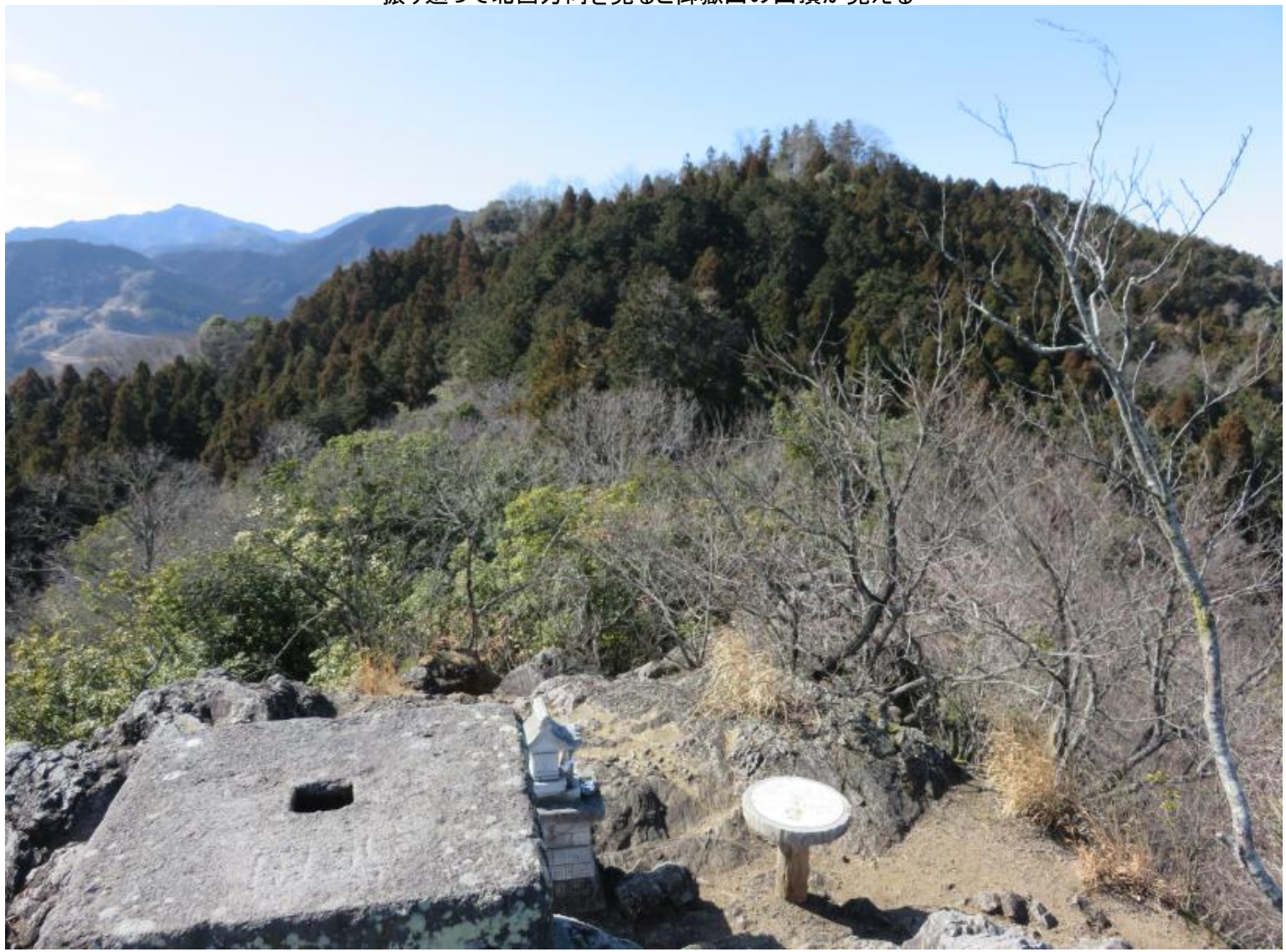
ここが岩山か

こんな感じ

東方向を見たところ

その左手を見たところ

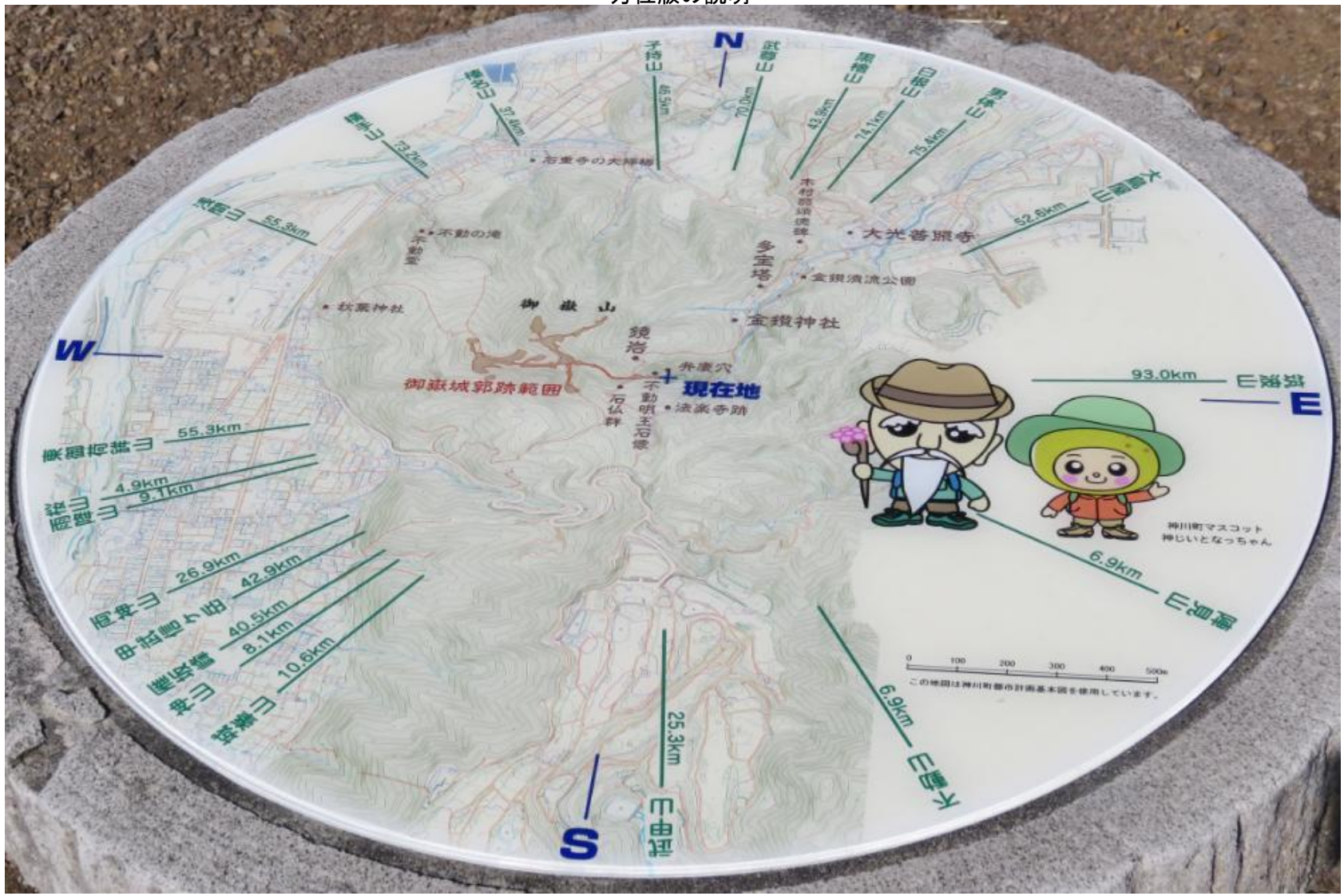
振り返って北西方向を見ると御嶽山の山頂が見える



御嶽山の山頂をアップで見たところ/そこが金鑽御嶽城跡の主郭

下を見たところ

方位版の説明


N
W
E
S
御嶽山
現在地
御嶽城郭跡範囲
大光普照寺
金鶏神社
93.0km
6.9km
25.3km
神川町マスコット
神じいとなっちゃん

岩山を下りて、次は弁慶穴を見てみる

右上に穴が見える

こんな感じ

これが弁慶穴

中へ入ってみる

こんな感じ

岩穴の中から外を見たところ

さて、いよいよ金鑽御嶽城跡の主郭方向へと進んでみよう/左手の道は法楽寺跡方面に向かうようだ

主郭跡へと向かう

一寸したマウンドがあり、左手から廻り込んで進む

こんな感じ

更に進む

すると浅い堀切がある

その堀切を渡る土橋を見たところ

堀切を渡って振り返って見たところ

更に進む

ここにも堀切がある

堀切を渡って振り返って見たところ

さて、ここから急坂となっている

この前方が主郭跡のようだ

トラロープにつかまりながら登る

頂上の平場が見える

振り返って下を見たところ

ここが主郭跡/東側から西方向を見たところ

「御嶽城本郭跡」と記された標柱

御嶽山頂
3.43 m
神川山歩きの会
神川ウォーキングクラブ
神川自然に親しむ会

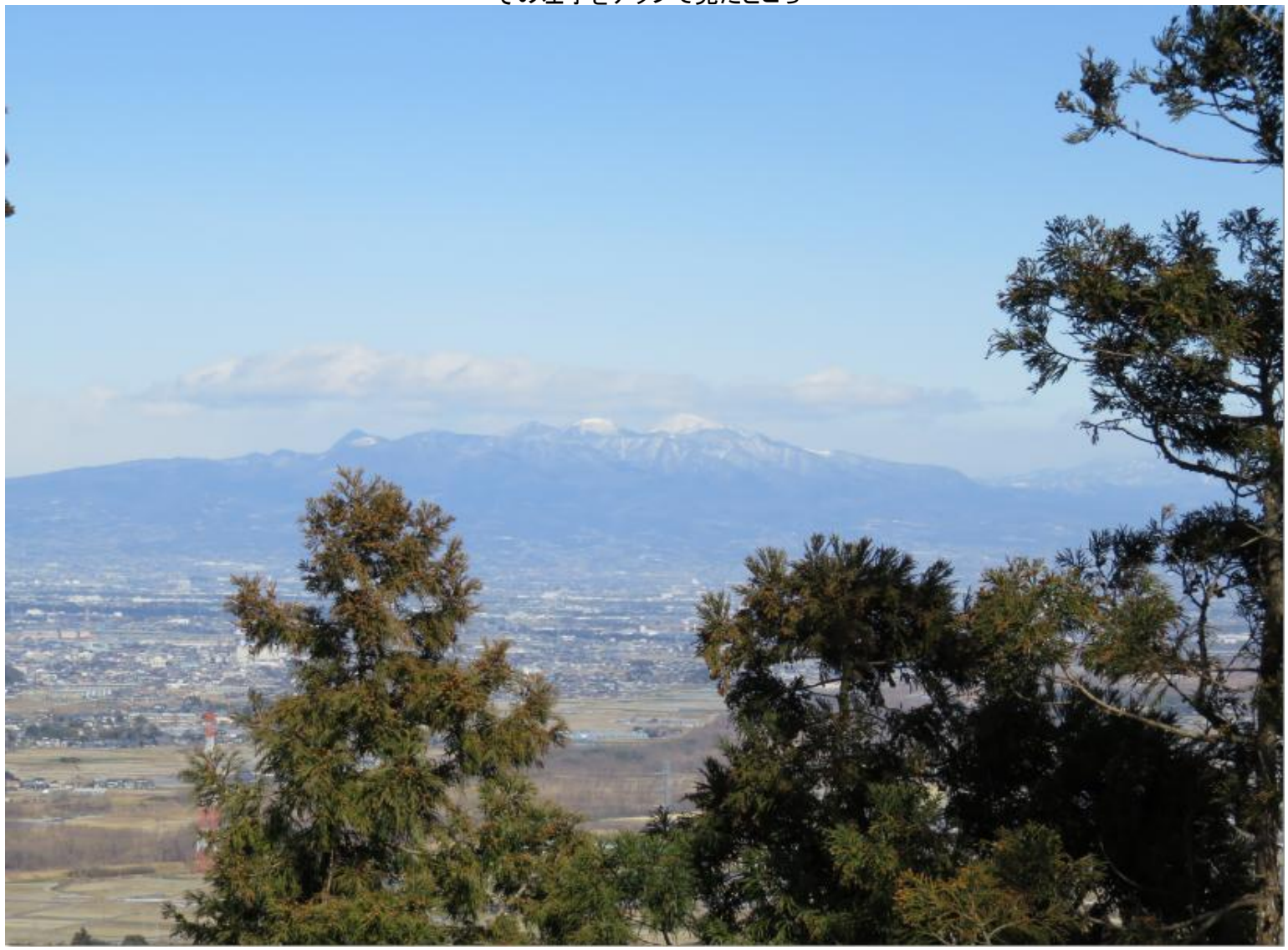
南東側から北西方向を見たところ

反対に北西側から南東方向を見たところ

測量点がある

主郭跡から東方向を見たところ

その左手をアップで見たところ



さて、主郭跡の西側の下を見ると腰郭跡らしき平場がある

その左手を見たところ/それなりの広さがある/この先を下って行くと西郭跡へ至る

同じく右手を見たところ/この先を下って行くと二郭跡へ至る

左手にある虎口状のここから、腰郭跡へ下りてみよう

ここを少し下る

前方に標識が立っている/右手が腰郭跡

ここを更に前方へ下って行くと西郭跡方向へ至る/手前左手に下って行くと「わたるせ登山口」へ至るようだ

腰郭を南側から北方向に見たところ/右手は主郭跡

主郭を見上げたところ

これは反対に北側から南方向を見たところ/右手が主郭跡

そこから主郭跡を見上げたところ/こちらにも主郭跡への虎口状のルートがある

さて、ここから二郭跡（前方）方向へ進んでみよう

前方に堀切が見える/その先が二郭跡

その堀底を見たところ

土橋の状態

堀底を横から見たところ

その先はこのように下っている

今来た方向（主郭跡方向）を見上げたところ

さて、二郭跡方向へ進もう

振り返って今の堀切を見たところ

ここが二郭跡/南側から北方向を見たところ

少し進むと前方の北端に土塁のようなマウンドが見える

こんな感じ/東側から西方向に見たところ

反対に西側から東方向に見たところ

そのマウンドから南方向に二郭跡を見たところ

振り返って北方向を見たところ

アップで見たところ/ゴルフ場が見えた

下を見るとこんな急な斜面となっている

これは二郭跡の東側を見下ろしたところで、広い平場が見える

そこへ下りて見たところ/ここも腰郭跡のようだ/左手が二郭跡

これは更にその腰郭跡から東方向の下を見たところ/道筋がある

この先にも幾つかの平場があるようだ

その平場をアップで見たところ

さて、先程の主郭跡下腰郭跡のところへ戻って、次は西郭跡方向へ進んでみよう

ここを下って行く

すぐに堀切がある

堀底を見たところ

堀底を横から見たところ

行き手を見上げる

堀切を越えて更に西方向を見たところ

振り返って今の堀切を見たところ

前に進む

一寸広めになっており、平場の雰囲気

更に進む

ここでガクッと下がっている

その先の下を見たところ

右手から廻り込んで下へ降りる

ここも堀切となっている

堀底を見たところ

その土橋のアップ

堀底を横から見たところ

その先はこのように下っている

振り返って見たところ

更に進む方向（西方向）を見上げたところ

更に前方（西方向）へ進もう

振り返って今渡った堀切を見たところ

更に進もう

一寸広めの平場がある

少し下がってそれから上っている

ここが低いところでここから上っている

こんな感じで上って行く/この辺りも城域であろうか

振り返って見たところ

さて、最後に「わたるせ登山口」方向へ行ってみよう

こんな道を下って行く

右下を見たところ/急峻な崖だ

どんどん下がって行く

その先に一寸した平場があるが

この先はトラロープをつかまらないと下りて行けない状況

そしてここで急峻な崖となっている

振り返って見るとこんな岩肌が

北側から御嶽山方向を見たところ

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/029mitake/mitake.html

http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/kamikawamati.htm

http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/mitake-jyo/

http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.kanasana.html

http://tomioka.at.webry.info/201201/article_12.html

http://53922401.at.webry.info/201501/article_7.html

http://saburou-kanetugu.cocolog-nifty.com/blog/2016/12/post-e82a.html

http://wandern.sakura.ne.jp/kanasanamitakejou.htm

http://blog.livedoor.jp/cedar_field/archives/51127652.html

http://awaya-daizen.cocolog-nifty.com/zatsubun/2012/01/post-edb5.html

http://www.town.kamikawa.saitama.jp/kanko/spot/jinja.html

http://www.genbu.net/data/musasi/kanasana_title.htm

http://www.geocities.jp/flow_and_stock/jisya-kanto/kanasana.html